

評価票＜胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（半固形タイプ）＞

現場演習用

受講登録番号	受講者氏名		利用者氏名	指導看護師氏名				
評価判定基準	ア	評価項目について手順どおりに実施できている	回数	回目	回目	回目	回目	回目
	イ	評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした	実施月日	/	/	/	/	/
	ウ	評価項目を抜かした（手順どおりに実施できなかった）	開始時間	:	:	:	:	:
			指導看護師 確認印	印	印	印	印	印
実施手順	評価項目		評価の視点	評価判定				
STEP4 実施準備	1	流水と石けんで手洗いをする。	・外から細菌等を持ち込まない。					
	2	医師・訪問看護の指示を確認する。	・ここまでは、ケアの前に済ませておく。					
	3	利用者本人あるいは家族に体調を聞く。						
STEP5 実施	4	対象者本人から注入の依頼を受ける。あるいは、対象者の意思を確認する。	・対象者の同意はあるか。意思を尊重しているか。 ・声をかけているか。					
	5	必要物品、栄養剤を用意する。 カテーテルチップ型シリンジを使う場合は、半固形栄養剤をシリンジで吸い取っておく。	・必要な物品が揃っているか。 ・衛生的に保管されていたか。 ・栄養剤の内容量と量は指示通りか。 ・栄養剤の温度は適当か。 ・賞味期限は確認したか。					
	6	胃ろうチューブの破損や抜けがないか、固定の位置を目視で観察する。胃ろう周囲の観察を行う。	・いじることなく、胃ろうチューブと胃ろう周囲を目視で観察しているか。 ・皮膚への食い込みや、発赤、びらん、漏れがないか確認する。					
	7	胃ろうチューブの先端をアルコール綿などで拭き、胃ろうチューブと半固形栄養剤のバッグないし、半固形栄養剤を吸ったカテーテルチップ型シリンジをつなぐ。	・それぞれの栄養剤に適したアダプターや接続用チューブ、加圧バッグ等が使用できているか。 ・再度、胃ろうチューブであることを確認してから接続しているか。					
	8	体位を調整する。	・対象者が望む安楽で安全な体位に調整しているか。					
	9	注入を開始することを対象者に伝え、半固形栄養剤のバッグないしカテーテルチップ型シリンジの内筒を、適切な圧で押しながら注入する。必要時は加圧バッグを使用する。	・決められた速度で注入できるように加圧できているか。 ・過剰に圧をかけて、接続部がはずれていないか。					
	10	注入中に、対象者に異常がないか、確認する。	・栄養剤が胃ろう周辺や接続部位から漏れていないか。 ・以下の内容を確認しているか。 ▶対象者の表情は苦しそうではないか。 ▶嘔吐、顔面紅潮、顔面蒼白、顔色の変化、気分不良、吐き気、腹痛、腹部膨満感、めまいなどはないか。 ▶意識の変化はないか。 ▶息切れはないか。 ▶体位のずれはないか。					
	11	注入が終了したら、カテーテルチップ型シリンジに白濁を吸い、胃ろうチューブ内に白濁を流す。	・決められた量の白濁を使い、適切なスピードで胃ろうチューブ内の栄養剤を流すことができたか。 ・胃ろうチューブの栓を閉じているか。					
12	終了後しばらくは上体を挙上したまま、安楽な姿勢を保つ。	・安楽の確認をしたか。						
STEP6 報告	13	指導看護師に対し、対象者の状態等を報告する。 ヒヤリ・ハット、アクシデントがあれば、あわせて報告する。	・対象者の状態等を報告したか。 ・ヒヤリ・ハット、アクシデントがあれば、報告したか。					
STEP7 片付け 確認	14	使用物品の後片付けを行う。	・使用した器具（経管栄養セットやシリンジ）を洗浄したか。 ・割ったり壊したりしないように注意したか。 ・食器と同じ取り扱いでよく洗浄したか。					
	15	対象者の体位を整え、状態を確認する。	・安楽な体位であるか対象者に確認したか。 ・嘔気・嘔吐等はないか、再度確認したか。					
STEP8 記録	16	実施記録を書く。 ヒヤリ・ハットがあれば、業務の後に記録する。						
				アの合計個数				
＜合格基準＞ 1回の手技において、全ての項目に「ア」がそろっていること。			一回の手技において ・すべて「ア」が揃っている → ○ ・「イ」「ウ」が一個でもある → ×					
()回目								
()回目								
()回目								
()回目								
()回目								

※対象者による評価ポイント（評価を行うに当たって対象者の意見の確認が特に必要な点）
・調理の仕方は適切か。流してみてもチューブにつまらないか。 ・注入の早さ、温度は対象者の好みであるか。 ・注入中の体位が楽な姿勢か

留意点 ※特定の対象者における個別の留意点（良好な体位やOKサイン等）について、把握した上でケアを実施すること。
※実際に評価票を使用する際は、各対象者の個性に適合させるよう、適宜変更・修正して使用すること。